

## 講義名・担当教員

上級マクロ経済学・西山慎一

## 時間割

前期 火曜1限

## 講義の目的

マクロ経済学は、一国経済の集計指標（GDP、物価、金利、失業率等）を主な分析対象とし、各経済指標の相互関連性を科学的に考察・分析する研究領域である。本講義では中級程度のマクロ経済学の内容を踏まえ、より発展的・応用的な上級マクロ経済学の内容を扱う。本講義の目的は、中級マクロ経済学で習得する IS-LM モデルならびに総需要・総供給モデルの知識を踏まえた上で、発展的な内容である、経済成長理論、マンデル＝フレミング・モデル、マクロ経済政策理論、マクロ経済学のミクロ経済額的基础付けの理論（リアル・ビジネスサイクル理論、ニュー・ケインジアン理論）等を習得することである。

## 成績評価法

- ・課題（25%）、期末試験（75%）で評価する。
- ・AA(90点以上)、A(80点以上90点未満)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)、D(60点未満：不合格)

## 講義の進め方

- ・テキスト（下記参照）の内容を中心に講義を進めるが、適宜、補足的・展開的な内容についても講義において扱う。
- ・学期中、講義の進捗状況に応じて計3回程度の課題を課す。
- ・期末試験を行う。

## オフィスアワー

火曜日  
12:00-13:00  
経済学部棟 622 号室

## 連絡先

講義時に指定する。

## 予習・復習について

## &lt;予習&gt;

- ・テキストの該当範囲について事前に読んでおくことが望ましい。

## &lt;復習&gt;

- ・講義内容および講義資料をもとに復習することが望ましい。

## その他（連絡事項）

- ・講義は日本語で行う。課題と期末試験は日本語で出題し、解答は日本語か英語とする。
- ・宿題は指定された期日までに提出すること。遅れた場合は提出放棄とみなす。
- ・期末試験は学期最後の講義中に行うが、学期最後の講義に都合により出席できない者は速やかに、遅くとも期末試験の一週間前までに担当教員に連絡すること。連絡なく欠席した場合は、救済措置は講じない。

## この講義を受講するために必要とする知識

- ・高校卒業程度の代数学・解析学（微分積分学）の十分な理解が前提となる。
- ・会計大学院科目「マクロ経済学」で習得する知識を前提とした上で講義を行う。中級程度のマクロ経済学の知識に不安がある場合は、まず先に「マクロ経済学」を履修すること。また、会計大学院科目「ミクロ経済学」の知識も本講義の内容を理解する上で有用であるので、「ミクロ経済学」も履修済みであることが望ましい。

## テキスト・参考文献

- ・テキスト：N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー マクロ経済学Ⅱ〈応用篇〉[第2版]』東洋経済新報社、2004年（訳者：足立英之、地主敏樹、中谷武、柳川隆）。
- ・参考文献：N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー マクロ経済学Ⅰ〈入門篇〉[第3版]』東洋経済新報社、2011年（訳者：足立英之、地主敏樹、中谷武、柳川隆）（講師注：会計大学院科目「マクロ経済学」で指定しているテキストである。この本の内容を前提とした上で「上級マクロ経済学」の講義を行う。）

## 第1回：オリエンテーション

### 講義の内容

1. オリエンテーション
  - ・本講義の目的ならびに概要
  - ・講義の進め方
  - ・テキストの指定
  - ・成績評価について
2. 経済学の基礎
  - ・経済学の十大原理
  - ・関数の概念・考え方
  - ・グラフの読み方

## 第2回：IS－LMモデル：復習

## 講義の内容

1. IS 曲線と LM 曲線
  - ・ IS 曲線とは何か？
  - ・ LM 曲線とは何か？
  - ・ IS-LM モデル
2. AD 曲線と AS 曲線
  - ・ AD 曲線とは何か？
  - ・ AS 曲線とは何か？
  - ・ AD-AS モデル

## 第3回：経済成長論 I

### 講義の内容

1. 資本の蓄積
  - ・ 資本ストックの成長と定常状態
  - ・ 貯蓄率と経済成長の関係
2. 資本の黄金律水準
  - ・ 定常状態の比較
  - ・ 黄金律定常状態への移行
3. 人口成長
  - ・ 人口成長を伴った定常状態
  - ・ 人口成長の効果

○本講義は、テキスト第1章をベースとする。

## 第4回：経済成長論Ⅱ

## 講義の内容

1. ソロー・モデルにおける技術進歩
  - ・ 技術進歩を伴う定常状態
  - ・ 技術進歩の効果
2. 成長を促進する諸政策
  - ・ 貯蓄率の評価
  - ・ 貯蓄率の変化
  - ・ 経済の投資配分
  - ・ 技術進歩の促進

- 本講義は、テキスト第2章をベースとする。
- 授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第5回：経済成長論Ⅲ

### 講義の内容

1. ソロー・モデルを超えて：内生的成長論
  - ・内生的成長の基本モデル
  - ・2部門モデル
  - ・研究開発のミクロ経済学
2. 経済成長の源泉の計算：成長会計
  - ・生産要素の増加
  - ・技術進歩
  - ・アメリカと日本における成長の源泉

○本講義は、テキスト第2章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第6回：経済安定化政策

## 講義の内容

1. 政策は積極的であるべきか受動的であるべきか
  - ・ 政策の実施ラグと効果ラグ
  - ・ 経済予測の難しさ
  - ・ ルーカス批判
2. 政策の運営：ルール対裁量
  - ・ 裁量的政策の時間非整合性
  - ・ 金融政策のルール
  - ・ 財政政策のルール
3. インフレーションと失業の間のトレードオフ
  - ・ インフレ率と失業率の短期的トレードオフ
  - ・ トレードオフと時間非整合性

○本講義は、テキスト第3章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第7回：政府負債と財政赤字I

### 講義の内容

1. 政府負債の規模
2. 測定問題
  - ・測定問題 (1)：インフレーション
  - ・測定問題 (2)：資本資産
  - ・測定問題 (3)：計上されない負債
  - ・測定問題 (4)：景気循環との関係
3. 政府負債に関する伝統的見解

- 本講義は、テキスト第4章をベースとする。
- 授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。



## 第 8 回：政府負債と財政赤字 II

## 講義の内容

1. 政府負債に関するリカード派の見解
  - ・リカードの等価命題の基本論理
  - ・消費者と将来の租税
2. 政府負債の他の側面
  - ・金融政策の効果
  - ・負債と政治的プロセス
  - ・国際的側面

- 本講義は、テキスト第 4 章をベースとする。
- 授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第9回：消費の理論 I

### 講義の内容

1. ケインズの消費関数
  - ・ケインズの推論
  - ・消費の謎
2. 異時点間の消費
  - ・異時点間の予算制約
  - ・消費者の選好
  - ・動学的最適化
  - ・所得の変化が消費に与える影響
  - ・実質利子率の変化が消費に与える影響
  - ・借り入れ制約

○本講義は、テキスト第5章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第 10 回：消費の理論 II

## 講義の内容

1. 消費のライフサイクル仮説
  - ・ モディリアーニの仮説
  - ・ 含意
2. 消費の恒常所得仮説
  - ・ フリードマンの仮説
  - ・ 含意
  - ・ 合理的期待とランダムウォーク消費仮説

- 本講義は、テキスト第 5 章をベースとする。
- 授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第 11 回：設備投資の理論

### 講義の内容

#### 1. 企業による設備投資

- ・ 資本コスト
- ・ 設備投資の決定要因
- ・ 租税と設備投資
- ・ 株式市場とトービンの  $q$

#### 2. 住宅投資

- ・ 住宅ストックとフローの住宅投資
- ・ 住宅需要の変化
- ・ 住宅への課税：固定資産税

○本講義は、テキスト第 6 章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第 12 回：貨幣供給と貨幣需要

## 講義の内容

1. マネーサプライ（貨幣供給）
  - ・準備制度
  - ・マネーサプライのモデル
  - ・金融政策の三つの手段
2. 貨幣需要
  - ・貨幣需要（保有）の投機的動機
  - ・貨幣需要（保有）の取引的動機（ボームル＝トービン・モデル）
  - ・貨幣需要（保有）の予備的動機
3. 金融技術革新と準貨幣の発展

○本講義は、テキスト第 7 章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第 13 回：景気変動理論の発展

### 講義の内容

1. リアル・ビジネス・サイクル理論
  - ・ロビンソン・クルーソーの経済学
  - ・技術ショックの重要性
  - ・貨幣の中立性
  - ・賃金と価格の伸縮性
2. ニュー・ケインジアンのマクロ経済学
  - ・メニュー・コストと総需要外部性
  - ・協調の失敗としての景気後退
  - ・賃金と価格の硬直性

○本講義は、テキスト第 8 章をベースとする。

○授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。

## 第 14 回：マクロ経済学の現在

## 講義の内容

1. マクロ経済学の 4 つの教訓
2. マクロ経済学の 4 つの課題

- 本講義は、テキスト第 9 章をベースとする。
- 授業の進捗状況により講義で取り扱うトピックに変更がありうる。
- 講義終了時点で余裕があれば、学期間で扱った内容の質疑応答の時間とする。

## 第 15 回：期末試験

### 講義の内容

- これまでの 14 回の講義の内容についての試験を行う。
- 試験時間は 90 分とする。
- 教科書・ノート等の持ち込みは不可。(クローズド・ブック方式)